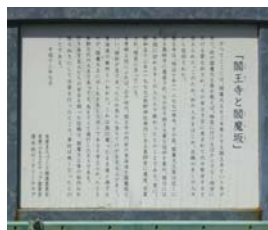




ミニロタン発見!
1 県立美術館前駅
 県立美術館の最寄駅。静岡鉄道静岡清水線では最も新しい駅。美術館にちなみ、当駅のホームにはロタン作品のミニチュアレプリカが飾られています。



石像が並ぶ
2 東光禅寺
 曹洞宗(そうとうしゅう)のお寺で、本尊は空海が作ったと伝わる地蔵菩薩(じそうぼさつ)。門前には、達磨大師(だるまたいし)の像が立っており、その他境内にも多くの石仏を有しています。



閻魔大王の祟り!?
3 閻王寺と閻魔坂
 かつて中之郷の東海道筋に「閻王寺」というお寺があり、閻魔大王の像が安置されていました。江戸時代、閻王寺の前で落馬する者が続出し、閻魔大王の祟りであると恐れられていました。閻王寺は明治10年に廃寺となり、閻魔大王像は鳳林寺薬師堂(ほうりんじやくしどう)に遷座(せんざ)し、安置されています。



イザナミノミコを祀る
4 熊野三柱神社
 祭神は伊弉冉尊(いざなのみこと)で谷田の氏神(うじがみ)。創建時期は不詳ですが、紀州熊野本宮より御分体で一個の石環に真綿で作った紐を付けた物と三体の丸石で三社の神名を記したものと伝わっています。



広範囲にわたる壮大な古墳群
5 谷田古墳群
 南幹線から県立美術館にかけて分布していた群集墓群(ぐんしゅうほくぐん)。6世紀後半に築造されたと考えられ、全体では50基以上にのぼります。この古墳群は石積の横穴式石室と呼ばれ、石室から、直刀(ちよくとう)、須恵器(すえき)などの副葬品が出土しました。



樹齢100年を超える
6 やぶきた原樹
 静岡県茶業振興に功績があった杉山彦三郎が発見した「やぶきた茶」の原樹。茶業草創期から60余年もの品種改良の末、試験地の2本を選抜し、竹藪の北側を「やぶきた」南側を「やぶみなみ」と命名したことからこの名に至ります。県指定天然記念物でもあります。



古墳の万霊を慰める
7 山神の碑
 大正初年「茶業連合会議所」の設置建設に当たり多くの古墳を発掘しました。古墳の万霊を慰めるため、当時茶業界の先頭に立っていた大谷嘉兵衛(かへい)の指図で、古墳出土した土器、刀剣を集めて石碑を造り、山之神として祭りました。



静岡県の埋蔵文化財・歴史を学ぼう
8 静岡県埋蔵文化財センター
 開発に伴う埋蔵文化財の発掘調査及び出土品の管理・活用を目的に設立された機関。ここでは出土品の整理と保存修復作業を行っています。旧石器時代から戦国時代にかけての出土品を中心とした展示を県立中央図書館3階展示室で行っています。



自然の中のアート作品
9 彫刻プロムナード
 プロムナードには国内外の彫刻家による作品12点が設置され、緑のあふれる自然環境の中で作品が自然と一体になり来館者を迎えてくれます。毎晩夜8時までライトアップされています。



アートに触れる
10 県立美術館
 静岡県ゆかりの画家・地域を題材にした日本画も多く所蔵しています。自然光を活かしたドーム状のロタン館は、美術館の目玉です!17世紀以降の日本と西洋の風景画を中心に収蔵。



静岡県内一の総合図書館
11 県立中央図書館
 県立美術館に隣接する図書館。75万冊近い蔵書があり、県及び市町村の資料も充実。一般図書のほか、徳川家の縁から江戸幕府由来の書籍が「葵文庫(あおいぶんこ)」として所蔵されています。



ビタミンB1発見の偉人
12 鈴木梅太郎銅像
 鈴木梅太郎(明治7年~昭和18年)は、現在の静岡県牧之原市出身の農芸化学者で、ビタミンB1の発見者。脚気(かっけ)に有効なビタミンB1の発見で、多くの日本人を救いました。その他、合成酒(ごうせいしゅ)の製造など、応用化学にも業績をあげました。



みんなの憩いの場
13 瓢箪塚古墳
 古墳の周囲は、「ひょうたん塚公園」として整備されています。古墳時代後期の築造と推定されており、保存状態は極めて良好。典型的な前方後円墳であり、全長は40mにもなります。



清泉湧き出す、灸の名所
14 桜井戸水神社
 かつて「灸(きゅう)」の名所として有名であった「桜井戸」。現在は碑と「水神社」が残されているのみですが、治療を行っていた場所は「桜井戸医院」となり、当時使われていた看板も残っています。春には、桜も見もの。



樹齢900年の大楠が見守る
15 熊野神社
 旧中之郷村の氏神として、熊野三柱神社と同じ三柱を祭神としています。(由緒は不詳。)御神木である境内の大楠は、樹齢900年の市指定文化財に指定されています。



小さな村の守り神
16 旧小田村薬師堂
 かつて20軒ほどの小村であった旧小田村には、氏神として八幡神社、菩提寺(ぼだいじ)として長昌寺(ちやうしやうじ)がありました。長昌寺は明治初年に廃寺となりましたが、境内にあった薬師堂は再建され、立派な薬師如来像(やくしにょらいぞう)を本尊として祀り、今もこの地にあります。



草薙神社の跡地
17 天皇原と古宮
 静岡信用金庫草薙支店のななめ向かいのマンションの敷地内に「古宮」という社(やしろ)があります。かつてはこの場所に草薙神社があったと伝えられています。この古宮周辺の平坦な土地は、草薙川を境に西側が「天皇原」と呼ばれています。



日本武尊が勝利の雄叫びを上げた
18 東護の森
 草薙の地で賊(ぞく)たちを鎮圧した日本武尊は、この地で勝利の雄叫びを上げ、東護の森社(もりしや)の祭神天照大神(あまてらすおおみかみ)に勝利を報告しました。この地にはかつて大楠があり一帯の古墳から様々な装飾品などが出土されました。現在は、この地で出土した祠(ほくら)が祀(まつ)られています。



賊衆の首が眠る
19 首塚稲荷神社
 小高い丘の上、さらに坂を登り、いくつもの赤い鳥居を抜けた薄暗い森の奥にあります。日本武尊に敗れた賊衆の首が埋められているといわれていますが、恐ろしい歴史とは裏腹にここからの眺めは最高。隠れた絶景ポイント。



草薙神社神主の先祖
20 森元温の墓
 森元温(天保8年~明治17年)は、浅間神社神主の次男、後に草薙神社神主の養子となりました。国学・武芸に優れた秀才で、慶応4年、徳川慶喜追討の大号令が発せられた際には、江戸攻めにも参加。後に明治政府より感状を賜って帰郷、神職を継ぎました。



日本武尊伝説の地
21 草薙神社
 日本武尊が草を薙いだという、その伝説の地が今の草薙であるといわれています。景行天皇(けいこうてんのう)53年に創建され、草薙剣(くさなぎのつるぎ)を御霊体として日本武尊を祀り、その名を草薙神社としました。その後、草薙剣は、現在の熱田神宮に移されたといわれています。



静岡茶の始祖を祀る
22 聖一国師堂
 本尊の聖一国師は、静岡県出身の高僧。彼は、僧侶として最高の栄誉となる「国師」の号を日本で初めて贈られました。国師は中国から茶の種子や優れた技術を持ち帰り、日本の文化と産業の進歩に貢献。持ち帰った茶の実を静岡市の足久保に植えたことが、今日の静岡茶の起源と言われています。



毎月十七日夜から二十三日夜まで七夜、お祈り
23 十七夜山千手寺
 本尊は、弘法大師(こうぼうだいし)作と伝わる千手観世音菩薩(せんじゆかんのぜんおんぼさつ)。元禄5年、旗本水野伯耆守美により開創されました。境内には水野氏守本尊の「虚空藏堂(こくうぞうどう)」、麻機から遷座されたと伝えられる不動尊を祀る「十七夜星」、小石に法華経を書いたものが数千個埋蔵されているといわれる「経塚(きやうつか)」があります。

出展
 ●有度ふるさと研究会作成
 「有度歴史散策」「有度の史跡・散策の菜」
 「清水市合併40周年記念 有度ふるさとマップ」

みちくさなぎ

Vol.2 *michikusanagi* sansaku-map



作成/草薙の輪プロジェクト 発行/静岡市役所 清水駅周辺整備課
 〒424-8701 静岡市清水区旭町6番8号 TEL.054-354-2018
<http://www.city.shizuoka.jp/deps/simizueki/index.html>

草薙の輪プロジェクトとは?
 草薙の輪プロジェクトは、草薙に愛着と熱意のある人が集まり、「草薙ブランド向上」~歩いて楽しいまちづくり~を目指し、地域に貢献できる活動をしていくプロジェクトです。このマップは、活動の一環として、ワークショップを通して作成した草薙駅周辺地区の散策・情報マップです。